

藤樹人間学塾： 藤樹思想を学び考え実践する

塾長 田中清行

藤樹人間学学習会は四月から、「藤樹人間学塾」として再スタートすることになりました。三月で『大

学解』を終わりましたが、本会報では、今年の学習会の模様をお伝えし、五月以降の予定をご案内いたします。

一月九日（土）午後、第53回学習会を安曇川公民館で行いました。

最初に百歳を超えてなお現役で活躍されている医師、日野原重明さんが信条とされている「新しく始めるといふことを忘れないければ老年というのは一つのすばらしいことである」を紹介しました。

『大学』を素読の後、「富は屋を潤し、徳は身を潤す。心広く体ゆたかなり。故に君子は必ずその意を誠にす」の項を学びました。この項の概

意は、「心身をゆたかにするために、徳を積むことが大事で、そのためには善い心を持つよう努力することが大事である」ということです。フリートーキングでは「徳とは何

高島藤樹会活動の紹介

か……徳は清らかな布施によって簡単に得られると釈尊は言われている。「道徳とは何か」、「道徳を体現している人は」……鍵山健三郎さんたちではないか、などと話し合いました。

二月六日（土）午後、第54回学習会を安曇川公民館で行いました。

素読の後「いわゆる身を修むるには、その心を正しうするにありとは……」の項を学びました。この項の概意は、「心身は別々のものではなく一体であるからまず心を正さなければならぬ」。ここで釈尊

の説かれている心の中身の話をしました。水は水の成分で成り立っています。塩が入れば塩水になり、アルコールが入ればお酒になり、毒が入れば毒水になります。同様に、心も五十二の心所(成分)から成り立っています。まず共通心所・必須心所という基礎的なものがあり、次に「欲」、「怒り」などの不善心所があります。心が不善心所におおわれていると幸せにはなれません。そこで「信」や「喜」などの善心所を磨く必要があります。こうしてみると藤樹先生の教えは釈尊の教えと共通点がいっぱいあるのです。

フリートーキングでは心と身について「身とは五事を正すような行動をいふのではないか」とか、「同じ人でも心のありようで物事の受け止

め方が変わってくる」などと語り合いました。

三月五日（土）午後、第55回学習会を安曇川公民館で行いました。

最初にある事例を出して、いくらお金を稼いでもそれを自分のためだけに使うことでは評価されないし、幸せになれない、という話をしました。

素読の後、「心ここに在らざれば、視て見えず、聴きて聞こえず、食らいてその味を知らず。これを身を修るには、その心を正しうするに在りという」の項を学びました。この項の概意は、「心が本来あるべき良知から離れていると、視ても聞いても食べても本来のものを感ずることができない。ましてや思うこともできない。したがって心を正しくしなければならぬ」。ここで良知とは釈尊の説かれている善心所である」と話しました。フリートーキングでは「素直な心がいかに大切であるか」について語り合いました。



今回で一年三カ月かけて学んだ『大学解』を終わりました。その後、懇親会を楽しみました。

四月二日（土）午後、第56回学習会を安曇川公民館で行いました。今回から『孝経啓蒙』のスタートです。最初に学習会の名称を「藤樹人間学塾」に変更し私が塾長になることを了承していただきました。

初参加の方もあったので、まず藤樹先生の「孝」の思想の話をし、その思想の基になっている『孝経』の成り立ち等を話しました。そして西晋一郎先生の序文を読み進めました。フリートーキングで川越さんから「高島市には藤樹さんの酵母菌が住み着いているので、外から来た人が良い気分になられるのだ」という意見発表があり、そういえば酵母の「酵」という字には藤樹先生の「孝」が入っているなど、活発な議論がなされ盛り上がりしました。ここ数回、大阪から若い伊藤氏も参加されているなど新しく参加される方が徐々に増えていきます。「学ぶは楽しい」。皆さまのご参加をお待ちしています。

「藤樹人間学塾 平成28年度予定」

- 5月7日（土）、6月18日（土）、7月2日（土）、8月6日（土）、9月10日（土）、10月1日（土）、11月5日（土）、12月3日（土）、1月14日（土）、2月4日（土）、3月4日（土）

時間 15時～17時

場所 安曇川公民館

◎印は塾を終了後懇親会あり